



戦争と平和

トルストイ著の「戦争と平和」という、今でいう大河ドラマの本があるが、名前に注目してもらいたい。「戦争」が「平和」より先になっている。

人間社会は最初に平和ありきではなく戦争（戦い）ありきなのである。

自然から、そして又他人から富を奪うのが先で、いただいた富で幸せ（平和）になるのは後。

戦後 1971 年 8 月 15 日のニクソン・ショック（ドル・金交換廃止）までの株式市場はほぼ 100%実体経済の GDP に比例していた。

基軸通貨ドルが金の裏付けなしで発行され、世界中の国がアメリカに倣って借金（国債）返済の為に無担保で通貨を発行するようになると家計も借金漬けになり国家と家計の負債額と株式市場が比例した。

1990 年後半から 2000 年にかけて IT ブームになったが、売り上げ予想が担保の IT 企業に銀行は貸せないから IT 企業は 1 セント株を無制限に発行し、上場出来たら何百倍も儲かるが、潰れれば 100%損の時代になり株式市場は IPO ブームで沸いた。

2001 年後半 IT バブルが崩壊してからは不動産ブームとなり株式市場は不動産価格と連動した。

そして 2008 年サブプライム・ローン焦げ付きで不動産バブル崩壊。

今度は中央銀行の金融緩和で株式市場は質的、量的金融緩和に左右されることになった。

そして 2014 年 10 月 FRB は金融緩和の出口を迎え、2015 年 12 月から利上げの引締め政策になり、緩和依存の株式市場も終焉を迎えようとしている。

では株式市場が次に依存するのは何か。

枯れ木に偽札で花を咲かせて「花見酒」を楽しんだ後に何が来るか聞かなくてもわかるはず。

「戦争と平和」、戦争の後は平和、平和の後は戦争！

本日はここまで。

**増田俊男の「目からウロコのインターネット・セミナー」大好評配信中！
1ヶ月わずか約¥1,000！ご契約は1年単位になります**

現在大好評配信中！「目からウロコのインターネット・セミナー」！視聴期間はお申込み翌月より12ヶ月となりますのでお申込み月は無料でご視聴頂けます。1か月の平均配信回数は4～6回になります。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社（Tel : 03 3955-6686、HP : www.chokugen.com）まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社（Tel 03-3955-6686）までお知らせ下さい。